

令和5年度 学生 FD CHAmiT 学部提案書に基づく学生への回答書

日本大学では、FD 活動に学生の声を反映させながら教育力の向上を目指すべく、平成25年度より、16学部95学科、短期大学部4学科、通信教育部を対象に学生・教員・職員が一堂に会して学生FD や本学の教育について理解を深め、気軽な雰囲気の中で語り合う「日本大学 学生FD CHAmiT (ちゃみっと)」を開催しております。全学規模のイベントとなっており、例年、各学部等から200名以上の参加者を得て開催しております。令和2年度及び令和3年度においては、コロナ禍の影響により、オンライン (Zoom) 開催いたしました。

第11回目となる令和5年度においては、4年ぶりに完全対面方式で実施しました。「あなたにとって大学とは何ですか」という昨年度のテーマを踏襲した上で、Chat GPT などの新しい技術が登場したアフターコロナの今だからこそ、大学で学ぶ意義等を話し合い、自身が思い描いた大学生活の理想と現実のギャップについて、意見を出し合いました。それらを踏まえ、最終的に「理想の学部にするための提案」「日大教育の未来のビジョン」を提案書として作成しました。

学生からの提案を受けて、効果的な教育改善の実現に繋がるよう、薬学部において学生との協議の場を設け、学生・教員・職員の三者で協議した上で「学生への回答書」を作成いたしましたので、御覧いただきますようお願いいたします。

今後も薬学部では、教育の質や改善について検討を重ね、より良い教育環境づくりに努めていきます。

日本大学 FD 推進センター
日本大学薬学部 FD 委員会

令和5年度 学生FD CHAmmit 学部提案書に基づく学生への回答書

【薬学部】

1 学生との協議の場について

実施日	実施内容
令和5年12月5日	CHAmmit参加者（教職員含む）及び学生スタッフ、薬学部FD委員会委員長、委員の計7名が対面で、学部提案書の実現に向けて、75分程度意見を共有しました。

2 薬学部から学生へのメッセージ

今年度から長期間に及ぶコロナ禍が終息し、大学にも活気が戻り始めました。全対面授業となったことに加え、コロナ禍で培われたオンデマンド配信などの手法も取り入れることで、コロナ禍以前よりも優れた大学教育ができると思われまます。この新しい教育の構築には、教職員だけでなく、学生の皆さんのご協力が必要です。学生の皆さんにおかれましては、FD活動を始めとした教育改革を通して学修環境を改善し、自身の学修をより実りのあるものにしてもらえたらと思います。

3 学部提案書の対応について

「理想の学部」にするための提案について

項目	対応済	対応中	検討中	対応内容
授業（オンライン） ・授業アーカイブを残す。	○			令和4年度から対面授業が再開され、その授業の大部分を授業録画システムで録画しています。その授業動画はオンデマンド配信しており、学生は履修している科目の授業動画をLMSから視聴することができます。そのため、対面授業受講後にオンデマンド配信を活用して復習を行うことが可能です。履修後についても視聴できることが望ましいですが、著作権などの課題があり、現状では対応が難しい状況です。
授業（対面） ・アクティブラーニングを導入する。	○			令和4年度から対面授業が再開され、実習やグループワークも従来どおり行っています。そして、本学の問題解決型学修を取入れている授業時間の割合は、おおよそ必修科目で16%、選択科目で19%です。今後も問題解決型学修を取入れた授業を増やしていく予定です。一方、薬学教育では講義などの受動型の学修法が適している科目もありますが、履修者との双方向性に配慮するよう周知します。
交流 ・社会と学部が協力できるような授業を作る。		○		1年次の必修科目の「早期臨床体験」では薬局、病院、介護施設の見学、「機能形態学」では病院での人体解剖の見学などの機会を設けています。しかし、2～3年次には臨床現場に触れる機会が無いため、「特色教育」や「キャリアデザイン」などの科目を通してそのような機会が設けられないかを検討していく予定です。
テスト ・小テスト解答期間が終わったあとに点数開示やフィードバックを行う。 ・成績の点数開示を徹底する。		○		LMSによる小テストでは、フィードバックとして解答提出直後にリアルタイムで正答や解説が示される科目があります。また、次回の授業で解説を行っている科目もあります。現時点では、科目の特性により対応が異なりますが、LMS上の小テストの再掲やフィードバックに可能な限り対応するように、科目を担当される先生に周知しています。
設備 ・空き教室を解放して自習スペースにする。	○			空いている教室は、セキュリティーの都合上、施錠しています。そのため自習スペースとして、令和3年11月から総合講義試験（卒業試験）や国家試験を控えている6年次生に対しては一部制限を設けた上で2号館2階多目的ホールを開放しています。8号館1階自習室及び図書館の実習スペースを活用してください。
テスト ・シラバスに記載する成績評価基準を統一する。	○			成績評価として、試験に重きを置く科目もあれば、レポートに重点を置く科目もあるように、科目毎に特性が異なるため、成績評価の基準を統一することは難しいです。一方、シラバスの成績評価の項目は、その記載について適当なもの、適当でないものなどの例示を参考にして科目担当者が作成し、シラバスを取りまとめる先生方がそれを確認しています。そのため記載の形式については、基本的に統一されています。

※令和6年4月1日現在の対応内容となっており、今後の状況によって変更する可能性があります。